

チェリア

2025. Winter
vol.

71



写真提供: 天童市役所

佐藤 千夜子 さとう ちやこ

1897年 山形県東村山郡天童村(現:天童市)生まれ。日本初のレコード歌手。
14歳で上京し、普連士女学校、青山女学院へと進み、東京音楽学校在籍時(現在の東京藝術大学)聖歌隊員として讃美歌を独唱したところ、中山晋平に見いだされた。
1928年 31歳の時、日本最初のレコード会社「日本ビクター」で「波浮の港」を吹き込み、レコード歌手第1号となる。
翌年には「東京行進曲」が大ヒット。その後、「影を慕いて」「ゴンドラの唄」「君恋し」などをヒットさせ、全部で64曲をレコード化した。
なお、「影を慕いて」は佐藤千夜子が唄い、作詞作曲家の古賀政男が世に出るきっかけになった歌である。
晩年は病魔に侵され病との闘いの日々を送った。
1968年 永眠。享年71歳。

表紙:山形県ゆかりの女性
61号から様々な分野で活躍された山形県ゆかりの女性たちを紹介しております。

CONTENTS

- 2-5 全国女性会館協議会
第68回全国大会in山形2024&
チェリアフェスティバル山形2024
- 6 ネットワーク活動支援事業報告
- 7 令和6年度
山形県男女共同参画社会づくり功労者
等知事表彰
キャリアアップセミナー報告
- 8 パープルリボンプロジェクト2024
in YAMAGATA

「女性に対する暴力をなくす運動」

パープルリボンプロジェクト2024 in YAMAGATA



内閣府が11月12日から25日まで実施する「女性に対する暴力をなくす運動」にあわせて、パープルリボンプロジェクト2024 in YAMAGATAを開催しました。

遊学館ギャラリーにおいてDVをテーマにしたパネルの展示とパープルリボンやリーフレットの配布を行いました。



●遊学館2階ギャラリー

パープルライトアップ

～ 今年は県内8か所の建物がライトアップされました ～



【鶴岡市】
荘銀タクト鶴岡



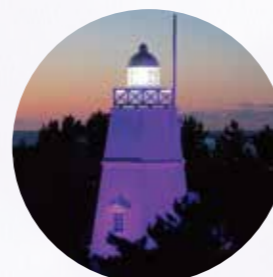
【山形市】
郷土館「文翔館」



【高島町】
高島町文化ホール「まほら」



【米沢市】
旧米沢高等工業学校本館



【酒田市】
日和山公園六角灯台



【寒河江市】
寒河江市役所



【川西町】
川西町役場



【上山市】
上山城

編集後記

- ▶ 遊学館、文翔館、コロナ禍による規模縮小など、様々な場所や形で開催されてきたチェリアフェスティバル。今年は全国女性会館協議会全国大会との同時開催となりました。チェリアフェスの歴史を鮮やかに彩る1ページとなることでしょう。(E)
- ▶ 全国大会は、山形県内外の皆様のおかげで大成功でした。ありがとうございました。さて、今年の私のテーマは「雑」と「整」にしました。とにかく動きつつ整えていきたいと思います。(T)
- ▶ 表紙の「山形県ゆかりの女性」は沢山の方のご協力のおかげで掲載させて頂いています。表紙をきっかけにチェリアについて知っていただく機会も増えました。次回、春号の表紙もお楽しみに♪(S)

山形県男女共同参画センター チェリア

〒990-0041 山形市緑町1-2-36 遊学館2階
TEL 023-629-7751 FAX 023-629-7752
相談専用電話 023-629-8007
HP <https://yamagata-cheria.org/>
利用時間 午前9時～午後9時
※夜間利用の申し込みがない場合は午後8時まで
休館日 第1・3・5月曜日、第3日曜日、年末年始
令和7年1月発行
編集発行 (公財) 山形県生涯学習文化財団



【アクセス】

- JR山形駅から
バス/市役所経由路線バスで
市役所前下車、徒歩5分
タクシー/約10分 徒歩/約25分
- 自動車
山形自動車道山形蔵王ICから約10分。
県営駐車場、遊学館駐車場をご利用下さい。
入退館時に駐車券を遊学館1階の総合案内へお出し下さい。
ご利用時間に応じて駐車料金が割引になります。

チェリア
HPは
こちらから!



全国女性会館協議会第68回全国大会 & チェリアフェスティバル

全国女性会館協議会の会員館をはじめ、全国の男女共同参画センター、女性センター、女性会館等が参集し、女性関連施設の管理運営の充実、発展を図るための研修や各種事業の情報交換を行い、男女共同参画社会の形成を促進することを目的とした全国女性協議会第68回全国大会が山形で開催されました。

今年度は、「認め合い支え合い ともに歩もう多様性社会」をテーマとして、「チェリアフェスティバル山形2024」と合同で実施しました。

5つ目は、女性の活躍に関する国際的な視点です。上場企業の女性役員の割合は諸外国では30%程度ですが、日本は15%で諸外国の10年以上遅れている感があります。男性賃金を100とする、女性賃金は、OECD平均で9割弱、日本は78%です。実質GDPの水準は1995年を100とすると、アメリカは196でほぼ2倍です。1995年は世界女性会議が開かれ、この年以降、各国とも女性活躍を加速させています。この間の実質GDPの伸びをみると、アメリカ2倍、ヨーロッパ諸国は1.4〜1.6倍になりましたが、日本は90年代末からデフレになり1.2倍に留まっています。女性活躍、男女共同参画は、少なくとも経済成長の阻害要因とは言えないと思います。むしろ女性活躍や男女共同参画は、女性が能力を発揮することを通じて経済成長に寄与します。女性の能力発揮を妨げる要因を一つずつ取り除き、活躍しやすい環境の整備が大事です。



4つ目は、正社員と非正規の二重労働市場に関する課題です。女性の就業率は、かつてはM字型でしたが今は諸外国同様、台形になっています。ものの、正社員の比率をみるとL字型カーブです。産業ごとに見ると、特に「卸売・小売」「宿泊・飲食」「生活関連サービス」で非正規の女性割合が高いです。コロナ禍では男女ともに就業者が減少しましたが、特に女性の就業者の方が大きく減ったのは、コロナで強い影響を受けた産業に非正規の女性が多かったからです。フルタイムの正社員とフルタイムで働く非正規雇用の年収を「宿泊・飲食」でみると、正社員男性は454万円、正社員女性は350万円、非正規女性性は250万円前後です。女性の賃金を高めていくためには、同一労働同一賃金の徹底とともに、希望者には正社員として能力発揮できる環境づくりが大事だと考えます。

さて、日本では、地方から東京圏へ若年女性が流出するという課題に直面しています。コロナ禍前、20代前半女性の転入超過は大都市圏だけで、他県は転出超過です。転入超過はコロナ禍で一旦減りましたが、最近また戻っており、直近で男性3万6千人、女性4万人と、女性の方が多いです。若年女性が大都市圏に流出した結果、一部の地域では未婚者の男女比の不均衡が生じています。2020年の国勢調査に基づくデータで、20〜34歳の未婚者の男女比は、山形県は女性1に対して男性が1.301です。大都市圏はほぼ男女トントンです。今、男性が1.3以上の県は7県、1.2以上は23県もあります。なぜか。若い女性が地元を離れて大都市に移り、戻っていないからです。2000年頃までは、多くの未婚男性が大都市圏にいました。1970年代、太田裕美さんの『木綿のハンカチーフ』という歌謡曲がありました。が、今は「逆木綿のハンカチーフ」ですね。

東京圏以外から都内の大学に入学した学生数は、男性が減って女性が増えています。これは、国土形成計画の上でも大問題ということで、内閣府主催のフォーラムで国土交通省の計画官にも参加してもらって分析、議論しました。アンケートでもありますが男子が多いです。仕事では、東京圏は女性の賃金水準は相対的に高く、30代など若手では男女間賃金格差も他県より比較的小さいためです。

もう一つは利便性や地元の意識で、こちらは女性が多いです。人間関係やコミュニティの閉塞感、地域の文化風習が肌に合わないといった理由を挙げる女性が多い。また、特に男女差が大きいのが地元の雰囲気でした。地方から東京圏に移動した人にアンケート調査をすると、地元では、「お茶入れや準備は女性」という役割分担意識があったという回答が女性で多い。また、「住民間の繋がりが強い」という回答も多い。これはいい反面、息苦しさを感じた人も一部にいます。これはいい反面、地元では世間体を大事にする人が多かったという回答も多く、これについても、若い人は、自分は嫌だと思っただけで、地元では固定的役割意識があると本人は感じて東京転出を選んだだけ。このように、地方から東京圏に若年女性が流出する理由には、仕事や意識など様々な要素があります。特に施策を考える上で大事な点を3つ挙げたいと思います。

一つは家族の姿の変化です。夫婦と子どもで構成される家族は、昭和時代、例えば昭和55年（1980年）では世帯全体の42%でし



in山形2024 山形2024

認め合い支え合い
ともに歩もう多様性社会



日時 2024年11月9日(土)～11月10日(日)

会場 遊学館(山形市緑町1-2-36)



基調
講演

地域経済と女性 若年女性の人口流出をどう止めるか



講師 内閣府 政策統括官
林 伴子 氏

内閣府政策統括官(局長)の林伴子です。普段は、総理や官房長官等に対して、日本や海外の経済状況について月例経済報告を直接行うとともに、経済財政白書等を取りまとめる責任者を務めています。

私は、いわゆる官庁エコノミストとして経済財政政策に関する参事官(課長)や審議官を務めてきましたが、2020年に突然男女共同参画局長になりました。着任して驚いたのは、日本の男女共同参画の遅れです。ジェンダーギャップ指数は今118位。私はそれまで経済の世界で日本のGDPは世界第4位(2023年)と一桁台の順位の話をしてきましたが、男女共同参画の世界は、局長着任当時121位と三桁の順位。また、日本の経済や政治における女性の参画もスコアが大変低く、本当に驚きました。日本の国家公務員の上級管理職級(局長・審議官)で女性は4%しかいません。諸外国では30〜40%は女性です。経済政策の職場や会議では女性は自分だけということが多いです。国際会議でも日本の代表団だけ女性は自分ひとりだったので、日本が遅れていることは何となく感じていましたが、数値でみるとこれほど遅れているのかと衝撃を受けました。

今、地方から東京圏への若年女性の流出が、大変深刻な問題です。私は、「女性に選ばれる地方」になるには、地域の男女共同参画センターの役割が大変重要だと思います。

まず、日本経済と女性活躍、男女共同参画の関係についてみると、日本の潜在成長率は、現在0%台半ばですが、女性が働く、労働供給の増加により経済を押し上げ、個人の能力が発揮されれば労働の質の向上や多様性を通じた生産性向上により潜在成長率を高めることが期待されます。また、女性の活躍により所得増加を通じて消費が増え、需要の押し上げも期待されます。

去年、ハーバード大学の先生が、ジェンダーに関する研究で初めてノーベル経済学賞を受賞されました。今年には東京大学と内閣府の共催で、ジェンダー経済学に関する国際会議を東京大学で初めて開催しました。ジェンダーについて、経済学の視点から女性の労働参加や賃金の課題等を議論する傾向は、とても良いと思います。

では、ジェンダー経済学からみた日本の課題を5つ紹介します。

一つ目は労働供給の量です。日本は大変な人手不足ですが、追加的な労働供給を望む女性は290万人、就業者数の約4%に相当します。これは3パターンあり、今働いている方々で仕事時間を増やしたい女性、求職中の方々、働く希望があるが今求職活動をしていない方々です。政策対応としては、柔軟な働き方やリスキリング、マッチングの支援や、保育や介護の環境整備など様々な取り組みがあります。日本は、働く希望のある方々が、工夫次第でもっと活躍できる余地があると思います。

二つ目は日本の女性の潜在的な能力発揮です。

OECD加盟国で、15歳時点の数学や科学の学力を数年毎に比較しており、日本は男女ともOECD加盟国第一位です。長年、トップクラスでばらつきも小さい。でも残念ながら、理数系の大卒・院卒の女性割合はOECD加盟国で最低です。諸外国ではキュリー夫人をはじめ多くの女性がノーベル賞を受賞していますが、科学や数学の学力が世界一の日本の女性では一人もいません。日本の女性が高い潜在力を活かし切れていないのです。この潜在力を活かすには、教育や労働、組織マネジメントにおける制度、慣習、意識など様々な側面で取り組みが必要だと思います。

3つ目は、男女間の賃金格差です。日本の賃金は、正社員50代後半のピークで、男性は月額43万円、女性31万円です。非正規男性と非正規女性の間も賃金の差があります。学歴別にみると、大卒正社員のピークは、男性52万円、女性40万円。大卒正社員女性と高卒正社員男性の賃金カーブはほぼ同じ傾きで、大卒正社員男性との間で年々給与の格差が広がる形です。厚労省のデータで同じ職種の賃金を見ると、保育士で30代後半、勤続年数も労働時間も男女とも同程度で年収は男性44.9万円、女性39.3万円。会計事務職についても、同様の勤続年数、労働時間で、42歳男性



※講演会スライドより



11月9日

オープニング



主催者挨拶 山形県知事 吉村美栄子

アトラクション



「山形大学 花笠サークル 四面楚歌」による花笠踊り



パネルディスカッション



「女性が暮らしやすく働きやすい地域とは？」をテーマに4名のパネリストとコメンテーターに林伴子氏、コーディネーターに伊藤館長の6名で意見交換が行われました。



全国女性会館協議会第68回全国大会in山形2024 & チェリアフェスティバル山形2024

だが、今は25%です。他方で、単独世帯は全体の38%、三世帯同居は1割弱です。また、昭和60年(1985年)は、50歳の未婚男性は3.7%、女性は4.3%でした。今の50歳の未婚者は男性28%、女性17%です。この実態を前提に、施策や物事を考える必要があります。

第2に、女性の活躍を阻害する可能性があるものとしては、意識、制度、慣行がありますが、例えば「女性はパート」という意識があると、制度設計もそうなりがち。するとそれを前提に仕組みができて、年収の壁で就業調整する。だから所得が上がらず、女性は補助仕事という意識が更に強まるなど、意識と制度と慣行は相互に強化し合います。私は、この悪循環にならないようにするのがとても大事だと思っています。特に今、現場の世代間ギャップは乗り越えなければいけない課題です。若者の意識の変化を2つ紹介します。1つ目は、未婚男性が将来のパートナーに望むこと。2021年の調査で、妻に仕事と家庭の両立を望む未婚男性は39%、妻に専業主婦を望む人は6.8%しかいません。1987年頃は、妻に専業主婦を望む未婚男性は37%で、妻に両立を希望する男性は10%しかおらず、子どもができたなら一回辞めて再就職してほしいという男性が38%でした。もう1つは、若い人の意識の変化です。「生涯独身は良くない」と思う未婚女性は4割弱、「男が暮らすなら結婚に賛成の未婚女性は47%と、かつてよりも減っています。離婚は避けるべきも、未婚女性では今38%、「結婚に犠牲は当然」の未婚女性は29%しかいません。かつては相応の数でしたが、現在の若い人の意識はまるで違いますので、その前提で政策やビジネスを進めることが大事です。

そして3つ目は、教育と労働市場を結ぶ進路指導です。かつて教師や保護者は「女子は結婚して養ってもらおうからそんなに勉強しなくていい」という意識がありました。その中で女の子が育つと、仕事のイメージが乏しいまま、偏りのある進路選択になり、専攻で培った知識や能力を活かせずに労働市場に入る。すると賃金所得の向上が望めない。その結果、女性は教育投資の効果が小さいということになり、偏見や意識が更に強化される可能性があります。また、現在、技術革新が速くなっている中で、今までの進路指導では、将来、日本経済と本人は大変困ること

11月10日

3つのテーマによる分科会が開催されました。

分科会①

ジェンダー視点からみた地方若者の生きづらさとは？

- 事例報告者
Sisterhood代表 小笠原 千秋さん
居場所と学びの場づくり「ぷらいず」 相談役 松井 愛さん



分科会②

みんなの意識にジェンダーの視点を〜ジェンダーカードの可能性〜

- 事例報告者
山形県男女共同参画推進委員 石澤 治雄さん
山形県男女共同参画推進委員 松田 治美さん



分科会③

防災・減災とジェンダー〜男女共同参画センターで何ができるのか〜

- 事例報告者
公益財団法人富山県女性財団事業課長 牧野 圭子さん
川崎市男女共同参画センター館長 脇本 靖子さん
鶴岡ナリワイプロジェクト代表 井東 敬子さん



チェリアフェスも同時開催!!



ハンドマッサージ、パステル画体験などのワークショップや展示が行われました。

になりかねません。それは、技術革新による労働需要の変化です。今、DX、特にAIの進化により事務職の需要は減っており、更に減る可能性があります。ハローワークの求人倍率で、非常に人手不足なのは建設や介護です。求人倍率1人に対して建設は4人以上ですが、事務職は0.4です。経済財政白書で企業調査をしたところ、企業がAIに置き換えたいと考えている業務は事務職が多いです。今後を考えるのが大事だと思います。
私の好きな言葉にヘミングウェイの「世界で幸せに暮らせる場所が2つだけある。それは自分の家・故郷と、パリだ」があります。これはパリがいかに素敵な場所かという言葉ですが、改めてみると、幸せに暮らせる場所はおもひとつ、自分の家や故郷、ホームだと言っているんですね。私は、今、故郷が若い女性が「幸せに暮らせる場所」になれないかというところが問われていると思います。若い時は、一度はニューヨークやロンドン、東京に行ってみてみたい、暮らしてみたいという人は少なくないと思います。私もそうでした。私はなぜパリに行ったかといえば、『ベルサイユのばら』のオスカル様が好きだったから(笑)、3年間、フランスの国際機関で仕事をしました。パリに残る道もありましたが、帰ろうと思ったのは日本に仕事があったからです。パリも幸せでしたが、日本でも仕事があるから幸せになると思いました。
地域経済の存続や発展のためには、「若い女性が帰りたい、暮らしたい地方」になることが重要だと思います。そのために大事なことが2つあります。
1つ目は、自分に合う仕事や能力を發揮して活躍できる仕事です。「ガラスの天井」がないのは当然で、「ガラスの壁」がないのも大事です。企業や自治体では、男性はいろいろな部署で仕事をさせてもらえるのに、女性は窓口か福祉の仕事になるという話を聞きます。女性が配属される部署が限られていて、その部署で女性の間だけで競争してくださいというシステムはよろしくない。私は、「ガラスの

壁」、女性の配属先の事実上の限定は、とっばらうべきだと思います。また、今は、結婚3に対して離婚が1ある世の中です。男性と同様に稼げる経済的自立も大事です。
2つ目は雰囲気です。「女性なのに」と言われない。自分の個性を發揮できて、出る杭が打たれるのではなくて打たれない。出る杭は伸ばしてあげるよ。そういう世の中、雰囲気大事だと思います。
このように若い女性に選ばれる地方になるためには、仕事と雰囲気重要であり、さらにこの実現のために大事なポイントが3つあると思います。1つ目は地元のために女性たちが能力を發揮して、実際に活躍している背中を若い人たちに見せること。2つ目は男女共同参画に反する言動は黙認しないで、きちんと指摘すること。男女共同参画は、国際的な規範です。しかしながら、面と向かって指摘するのは勇気がいるという人や、その場の雰囲気なかでどのような言葉で言えばよいか分からないという場合もあると思います。でも、最近の言葉ができました。「はて？」です。NHKの朝の連続テレビ小説「虎に翼」の主人公がよく口にしてた言葉です。変だと思えば、まずは「はて？」と言う。それが大事だと思います。3つ目は、経済や産業政策も含め幅広い分野で女性の視点も反映させ、女性に活躍してもらえ環境、若い女性が帰りたい環境を考えることです。
私は、人手不足は、女性活躍や男女共同参画を進めるチャンスだと思います。また、女性の地域における活躍は、地域の存続、ひいては我が日本国存続のためにもとても大事で、その環境をきちんと作る。地域の人々の方々の重要な責任だと思っています。山形県も含め、地域の経済がますます発展されることを心からお祈り申し上げ、私の話とさせていただきます。ありがとうございました。



— 令和6年度 —

「山形県男女共同参画社会づくり功労者等知事表彰」受賞者

功労者表彰(二名)

多年にわたり男女共同参画社会づくりに特に顕著な功績のあった個人・団体を山形県知事が表彰している賞です。

渡邊 節子 (山形市)

男性が家事や育児に関わることの大切さに着目し、各地で開催される助産師相談やパパママ教室等において、数多くの父親・母親に対し、家庭生活や子育てにおける固定的な性別役割分担意識の解消や、男女が共に協力して子育てを行う大切さを伝える活動に長年取り組んでいる。

村山 恵美子 (山形市)

県男女共同参画センター主催の地域リーダー養成事業「チェリア塾」の第1期生により構成され、交流と学びを通し男女共同参画社会実現のために活動する団体「桜桃(チェリア)の会」の中心メンバーとして、男女共同参画社会づくりに向けた機運醸成に貢献。

チャレンジ賞(一団体)

仕事や地域活動など様々な分野でチャレンジし活躍している個人・団体を山形県知事が表彰している賞です。

ヤマガタ防災・減災Action! (山形市)

大規模災害等の発生リスクが懸念される今日、国においても、防災・減災分野における女性の参画拡大が一層推進されている。その中で本団体は、避難所運営や災害時における男女共同参画の視点や課題を学ぶ講座等を開催し、これまで取組みが遅れている防災分野における男女共同参画の浸透と、同分野の意思決定過程における女性の参画を推進している。



地域男女共同参画

ネットワーク活動支援事業 報告

『男女共同参画社会基本法』制定25周年を振り返って ～変わったこと/変わらなかったこと～

日時 / 2024年9月7日(土) 13:30~15:30
会場 / 遊学館3階 第3研修室
講師 / 高木 直氏 (山形大学名誉教授)
齋藤 由美子氏 (東北文教大学非常勤講師)
参加人数 / 25名
主催 / チェリア塾ネットワーク
ちえりっぽ(女性=健康Yamagata)

『男女共同参画社会基本法』が1999年に公布・施行されてから、今年で四半世紀(25年)になります。この25年間で男女共同参画社会やジェンダー平等がどこまで進んだでしょうか。様々な制度や法律の下で「男女共同参画社会」や「ジェンダー」という言葉が国民にも徐々に浸透し、女性の社会進出や仕事と家庭の両立支援が進められました。基本法制定から25年経って、現在、男女ともに仕事と家庭の両立ができ暮らしやすい世の中になったと言えるでしょうか。一般市民はこの25年をどう捉えているのでしょうか。一人一人が振り返り、これからの進むべき方向性を見出せるように皆さんとともに考えたいと思いチェリア塾ネットワーク、ちえりっぽ(女性=健康Yamagata)がこの講座を企画しました。

講座に参加した皆さんが感じた25年間で変わったこと・変わらなかったことについて、「結婚」「出産・子育て・介護」「仕事・就職」「学び」などでたくさんの意見が出されました。法制度ができて自分たちの意識が追い付いていないのではという意見もあり、新しい課題も見えてきました。

今回の講座での気づきがこれからの未来につながることを、強く感じさせられる講座になりました。



ワークショップを行い参加者が25年間のわたしの道のリシートを作成。その後グループで感想を話し合い発表しました。

参加者からの声

- 自分の本当に好きなことをしていきたい。
- これまでを振り返ってこれからどうしていきたいのかを考える機会になりました。
- 私の可能性をもう少し信じて頑張ってみてみたいと思います。
- 学びの機会をきっかけに変わっていった方が多かった。学びの機会を提供する側で頑張らねばと改めて思った。



令和6年度 やまがた女性キャリアアップセミナー

「自分らしく働き、自分らしく輝く」ことを考える

開催日 / 令和6年10月10日(木)庄内会場
11月14日(木)山形会場

講師 / ヒューマン・アプローチ研究会
代表幹事 安達 隆司 氏

本セミナーは県内企業で働く女性を対象に、キャリア開発の基本を知り、職場で活躍するために必要な知識や能力を身につけることを目的として開催しました。今年は初めて庄内会場でも開催され、多くの方にご参加頂きました。

研修では、キャリア形成意識や社会人基礎力についてセルフチェックシートを活用し、自己診断を行いました。続いて、積極的傾聴やアサーション(自分の気持ちをきちんと伝えるスキル、相互尊重のコミュニケーション)や、ソーシャルスタイル(人の言動を4つのスタイルに分類するコミュニケーション理論)について学びました。

グループワークでは、楽しく話が弾んでいる様子が見られ、日頃接することのない異業種の方と共にキャリアについて話し合うことで、自身の仕事に対する姿勢や組織の中での立ち位置について考え直す良い機会となったようです。

参加者からは「どのスタイルの人も尊重し、相手への理解が大切だと思った。」「学んだことを明日からの仕事に活かしていきたい。」といった感想が寄せられ、充実したセミナーとなりました。

